

2022年1月13日

各位

会社名 インターライフホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 庄司 正英
 (JASDAQ・コード1418)
 問合せ先 役職・氏名 常務取締役・加藤 雅也
 電話 03-3547-3227

通期連結業績予想の修正（下方）に関するお知らせ

当社は、2022年2月期の決算において、2021年4月13日に公表した「2022年2月期通期連結業績予想」を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2022年2月期通期連結業績予想の修正（2021年3月1日～2022年2月28日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	13,000	150	130	100	5.21
今回修正予想(B)	11,900	10	10	70	3.61
増減額(B-A)	△1,100	△140	△120	△30	
増減率	△8.5%	△93.3%	△92.3%	△30.0%	
(ご参考)前期実績 (2021年2月期)	14,823	183	286	101	5.30

※1株当たり当期純利益の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、株式給付信託導入に伴い株式会社日本カストディ銀行（信託E口）が所有する当社株式を控除対象の自己株式に含めております。

2. 修正の理由

新型コロナウイルス感染症の影響により、企業活動や個人消費の回復など不透明な状況が続いておりますが、10月には緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除されたことや、ワクチン接種の普及が進むに伴い経済活動の再開が期待されます。しかしながら、新型コロナウイルスの変異株が新たに確認される等、先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループの主力事業である工事事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、新規出店等の計画の延期や中止が増加し、期内受注件数が大幅に減少いたしました。また、価格競争、原材料費高騰、半導体不足など新たな課題も出てきており厳しい状況となっております。このような当社グループを取り巻く環境において、業績に与える影響を精査した結果、業績予想を修正することといたしました。

一方、工事事業の第4四半期に跨る大口の受注が確定し、第4四半期においては収益改善が見通せる状況となっており、売上高は11,900百万円（前年同期比19.7%減）、営業利益は10百万円（前年同期比

94.5%減)、経常利益は10百万円(前年同期比96.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は70百万円(前年同期比31.1%減)にそれぞれ修正いたしました。

現在、2023年2月期を初年度とする中期経営計画を作成しており、当社グループの重要課題への対応と持続的な成長の実現に向け取り組んでまいります。

なお、初年度については工事事業の保有案件並びに受注案件の増加が見込まれることから、大幅な業績回復を目指しております。

今後も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大状況を注視しながら、当社グループにおける業績への影響を精査し、業績予想の修正が必要であると判断した場合には、速やかに開示いたします。

3. 配当予想について

期末配当予想については、安定的な配当を行う基本方針に変更はなく、2021年4月13日に公表した1株当たり4円から変更はございません。

※上記の業績予想につきましては、当お知らせの発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上